



## 7本指のピアニストとは？

6月18日(火)の午後、市川三郷町立生涯学習センター(if センター)において、市川三郷町内4つの中学校の全生徒を対象に『西川悟平トーク&ピアノ公演会』が行われます。公演会の前に西川悟平さんとはどんな方なのかをみなさんにお話したいと思います。西川悟平氏のこれまでを年表にまとめました。

- 1974年(0歳) 大阪府に生まれる 
- 1987年(13歳) 吹奏楽部に入部(チューバ担当) 
- 1989年(15歳) 音大進学を目指しピアノを始める  
(ピアノを始めた動機は、顧問の先生への憧れと恋心?)
- 1990~1992年(16歳~18歳) ピアノの猛練習
- 1992年(18歳) 見事、音大(短大)に合格 
- 1994年(20歳) 4年制大学への編入試験に失敗
- 1995年(21歳) 大阪高島屋食品売り場の饅頭屋まんじゅうに就職
- 1999年(25歳) 有名ピアニストに見込まれニューヨークへ誘われる(コンサートで前座を務めた際、有名ピアニストに臆することなく質問の嵐を浴びせたことで好印象を受け、NYで3ヶ月間のレッスンを受ける)
- 1999年(25歳) NYデビューを果たし饅頭屋を退職  
(NYリンカーンセンターで行われたピアノリサイタルが大成功! スポンサーもつき、ピアノで生計を立てること、つまりプロになることを決意し、再びNYへ! 翌年より定期的にカーネギーホールで演奏会を開くことになる) 
- 2001年(27歳) リサイタル中に指に異変が……  
(順調に思えたピアニストとしての生活も、次第に強いプレッシャーを感じるようになる。アメリカンドリームを掴み、そこそこ良い暮らしを手に入れていくらも経たない頃、強烈な心身の緊張から体が異変をきたす。リサイタル中に突如左手がこわばり、やがて右手にもその症状があらわれる)
- 2003年(29歳) 症状は悪化し、自殺未遂……  
(ジストニア〔神経性運動障害〕の診断を受ける。ジストニアは確実な治療法や完治した例がなく、「日本で治療すれば快方に向かうのではないか?」との希望を持って帰国するも医者から「プロとしては一生再起不能」と断言される。絶望から手首を切って死のうと自殺図るも、あまりの痛さに死ぬこともできなかった) ※ジストニアの症状はどういう訳か、ピアノを弾くとき以外、ほぼ正常に指は動く。
- 2004年(30歳) アメリカでジストニアの治療を受ける  
(両手の指は完全に内側に曲がり『きらきら星』さえ弾けない状態に。ピアノによる収入がなくなり職(アルバイト)を何種類も同時に行いながら指の治療を続ける。そのような苦しい生活の中、奨学金をもらいながら大学に通う) 
- 2005年(31歳) ピアノ教師の職を得る  
(知り合いの紹介でアメリカの幼稚園のピアノ教師となる。これを機に大学を中退し、マンハッタンに広さ二畳半の部

屋を借りて一人暮らしをする。家賃が高くアルバイトを続ける。この当時、リハビリによって左手の人差し指、親指、右手の親指、人差し指、小指の5本が動くようになる)

2005年(31歳) 大ピアニストに大阪でのコンサート出演の直談判(5本指は動く様になったものの人

前での演奏には程遠い状態。そんな折、大阪の母親がガンにかかったことを知り、母親を勇気づけるために大阪で大ピアニストのコンサートを自らがプロデュースし大成功を収める)

2007年(33歳) ジストニア発病後、初の人前での演奏(12月のクリスマスコンサートで両手合わせて5本の指で、憧れのNYスタインウェイホールで演奏する) 

2008年(34歳) 母の死・7本指が動くように(4月に母が他界する。これまでの5本に加え右手の中指と薬指が動くようになる。12月の2年目のスタインウェイホールでの発表会では初めて7本指で演奏する)

2008年(34歳) イタリア大聖堂でヨーロッパデビュー!(毎年イタリアで行われる「アレクサンダー&ブオーノ国際音楽フェスティバル」の最後の夜に、約千年前に建てられた大聖堂で演奏。聴衆にはジストニアを患っていることは伏せられていたが、会場からは止まぬ拍手とカーテンコールが)

2009年(35歳) 7本指のピアニストとして初のリサイタル(ピアノ界の殿堂NYスタインウェイホールでジストニア発病後、初のリサイタルを開く。7本指のピアニストの誕生)

2012年(38歳) NY市長公邸に招かれ演説&ピアノ演奏(日米リーダーシッププログラム〔定員日米各20名〕に応募し合格。宇宙飛行士・政治家・役者・画家・銀行員・会社員・企業家・スポーツ選手などと交流を深める。最終日、NY市長公邸で日本人代表としてのスピーチとピアノ演奏を披露する) 

2015年(41歳) 自書「七本指のピアニスト」出版  
(NY紀伊國屋書店和書部門で1位に輝く)

2016年(42歳) 亡きアメリカ人青年との出会い(うつ病により自らの命を絶った、日本のことが大好きだったアメリカ人青年の生前の夢を西川氏が叶える。彼の書き残したピアノ曲「Winter」を「絶対に彼の曲を美しく仕上げてみせる!」という思いで取材・猛練習し、この年の12月にカーネギーホール・大ホールで世界初演。その模様がアメリカのテレビ局でドキュメンタリーとなり、ニュースで放映される)

2019年(45歳) ベストドレッサー賞特別賞受賞  
2021年(47歳) 2020東京パラリンピック閉会式でピアノ演奏を披露し、パラリンピックの締めくくりを飾る

▼西川氏は小学校3年生の道徳の教科書(「あきらめたらアカン」)でも取り上げられています。右のイラストは司書の遠藤先生に描いていただいた西川氏です。絵も本物もとてもいけている西川氏の公演をお楽しみに。

